

## 主語にかかる Predicate Appositive

その他のタイトル	The Predicate Appositive as Subject Modifier
著者	中間 敬弼
雑誌名	関西大学商學論集
巻	42
号	6
ページ	1243-1261
発行年	1998-02-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00019189">http://hdl.handle.net/10112/00019189</a>

# 主語にかかる Predicate Appositive

## 中間敬式

### 1. はじめに

Predicate Appositive(叙述同格語)とは Curme<sup>1)</sup>の用語である。例えば、商業通信文の中で次のような英文<sup>2)</sup>を書いたとしよう。同文の *damaged* は主語の *the cases* にかかっており Curme が定義する Predicate Appositive である。

Concerning the shipment of the four 16mm movie projectors, *the cases arrived damaged* at the dock in Amsterdam yesterday, and...

本文の *damaged* は、他動詞 *damage* の過去分詞形で形容詞として用いられ、同文の主語である *the cases* にかかり *the cases* が到着した (*arrived*) 際の *the cases* の相並行する様態を補足的に述べている語で、Predicate Appositive (叙述同格語) である。換言すると、述語 (Predicate), あるいは、述語動詞の *arrived* は主語 *the cases* の叙述をしているが、*damaged* もそれと並行して主語 *the cases* の叙述を同格的におこなっているのです、叙述

---

1) George O. Curme, *Syntax*, pp. 30-32, 6 C. Predicate Appositive 参照。

2) cf. ...let us suppose that *the crates arrived damaged* at the dock in New York. -Philip S. Atkinson and Helen Reynolds, *Business Writing and Procedures*, p. 213 ; We regret to inform you that of the four cases of mohair rugs which were despatched on 28 January, *one was delivered damaged*. -L. Gartside, *Model Business Letters*, Fourth Edition, Revised by S Taylor, p. 65.

同格語, すなわち, Predicate Appositive と呼ばれるということになる。

本小論においては, このような Predicate Appositive (以下, PA と省略する) が文中で主語にかかる場合<sup>3)</sup>, どのような語が PA として用いられているのかについて現代英語の用例を通して考察し, 英文に類出する PA の実体を明らかにしたい。

## 2. PA としての名詞 (文尾の場合)

a-1 *He had flown 5,800 km (3,600 mi) in  $33\frac{1}{2}$  hours and returned home a hero.*

- K. Austin Kerr, 'Charles A. Lindbergh,' *The Academic American Encyclopedia* (Electronic Version, 1995)

本用例の *a hero* は, 下の矢印が示すように, 主語の *He* にかかり, *He* が帰国した (returned home) 際の *He* の相並行する様態を表す語で PA である。すなわち, *He* returned home *a hero* ということになり, *a hero* は同

文の主たる部分である *He returned home* の主語 *He* を補足的に修飾している語で PA である。同文を...and was a hero when he returned home に書換えることは可能であるが, そのようにすると he was a hero が主たる部分になる, そして, when he...以下は時を表す接続詞 when に導かれる副詞節になり, 全体は視点の異なる英文になる。既に述べたように, 同文の主たる語は *He returned home* であって *He was a hero* ではない。従って, 名詞の *a hero* は *He returned home* という完全文くすなわち, *a hero*

---

3) PA には, 他に, 目的語にかかる場合と文全体にかかる場合があると考えられる。拙稿「Predicate Appositive に関する一考察」『関西外国語大学研究論集』第15号 (昭和45年4月) pp. 145-168 ならびに, 拙著『商業英語の語法』(大修館書店) pp. 195-203参照。

がなくても文は成立する)の主語 *He* にかかっているあくまでも補足的な語で、PA であるということになろう。PA, すなわち、叙述同格語とは、述語 *returned home* が主語 *He* の叙述をおこなっているように、名詞 *a hero* も *returned home* の同格語として補足的に主語 *He* の叙述をおこなっているので、そう呼ばれるということになろう。

a-2 *He died, in 1880, in a small hotel in Washington, a broken, unhappy, and lonely man.*

- *A New Approach to English Reading*, p. 34 (from *This is America's Story* by Wilder, Ludlum and Brown)

本用例の *a broken, unhappy, and lonely man* は、主語の *He* が1880年にワシントン市の小さなホテルで死んだ (*died*) 際の *He* の相並行する様態を補足的に表す語で PA である。これを矢印で示すと次のようになろう。

*He died, in..., in..., a broken, unhappy, and lonely man.*

用例 a-1 の考察で見たように、本例も *When he died in 1880, in..., he was a broken, unhappy, and lonely man* と書換えることは可能であるが、そのようにすると、同文における焦点は *He died* ではなく *he was a... man* に当てられることになり、原文とは意味の上で離れることになる。原文の主要素はあくまでも *He died...* であり、*a broken, unhappy, and lonely man* は、*He died...* における *He* の様態を述べている補足語とも呼ぶべき語で PA である。

a-3 “*Gold doesn't float,*” *Bill would say. “It's still down there. You'll see. One day somebody's going to go after that ship and come up a millionaire.”*

- *Reader's Digest*, June 1993, p. 123

本用例の *a millionaire* は、主語の *somebody* が財宝を積んだまま海底に沈んでいる船を探しに行き (*go after*)、そして、探し当てて水面上が

ってくる (come up) 際の somebody の相並行する様態, あるいは, 水面に上がってきた後の somebody の様態を補足的に表す語であり, PA である。同語はあくまでも補足的に主語の somebody を修飾しているので, 同文を somebody's going to go after that ship and come up and become a millionaire あるいは, when somebody's going to go after that ship and come up, he'll be a millionaire と書換えた文とは異なると考えられよう。

a-4 *She arrived in Washington a tired and worried woman,...*

- *Newsweek*, November 12, 1973, p. 1

a-5 *I was terrified at the thought of going home a physical wreck.*

- Dale Carnegie, *How to Stop Worrying and Start Living*, p. 5

用例 a-4, a-5 の *a tired and worried woman, a physical wreck* は, 既に考察した用例 a-1, -2, -3 の場合と同じく, それぞれ, 主語の *She, I* にかかって主語の相並行する様態を補足的に表している。すなわち, *She* がワシントンに着いた (arrived) 際の *She* の様態が *a tired and worried woman* ということであり, また, *I* が go (ing) home する際の *I* の様態が *a physical wreck* であるということになる。

用例 a-1~a-5 における名詞は, 全て主文の主語と述語動詞の後におかれて主語に補足的にかかっているが, 次項で考察するように, 名詞が主語の前におかれて主語を補足的に修飾している場合もある。

### 3. PA としての名詞 (文頭の場合)

b-1 *A millionaire, he provided financing and accompanied Roald AMUNDSEN on the Polar Flying Expedition of 1925, and...*

- "Lincoln Ellsworth," *The Academic American Encyclopedia* (Electronic Version, 1993)

本用例の文頭の名詞 *A millionaire* も, 主語の *he* が資金を出した (pro-

vided financing) 際の *he* の様態を補足的に述べている PA である。さらに、*A millionaire* を主語 *he* の直後において *He, a millionaire, provided financing* とすることもできるが、その場合、*He, who is a millionaire, ...* と解され、*a millionaire* は主語 *He* の同格語 (Appositive) であるとする。同格語とは主語 *He* の補足説明をしているので、その本質は形容詞的なものである。そして、同格語の *a millionaire* を強めるために文頭に出したものが b-1 文であると考えられよう。また、「…である」の意を強調するために、動詞 *be* の現在分詞 *being* を用いて *Being a millionaire, he provided ...* のように分詞構文にする場合もある<sup>4)</sup>。その場合の分詞構文の部分の *Being a millionaire* も主語の *he* にかかっているので、同語を補足的に修飾している語、すなわち、PA である、と言えよう。

b-2 *A capable mechanic, he earned sixty dollars a week.*

- Truman Capote, *In Cold Blood*, p. 34

4) *A millionaire, he provided financing* は、文頭に *Being* を補って *Being a millionaire, he provided financing* である、と説明されることがある。しかし、後者の文には、「…である」の意を強調するために *being* が添えられているので、両文は本質的にイコールではないと考えられる。動詞 *consider* の構文においても、目的補語の前に 'to be' 動詞が入る場合とそうでない場合があるが、次例 a) においては、「…である」の意が強調されて 'to be' が添えられたと考えられよう。cf. a) *Although they are sometimes classified within the Australasian race, many anthropologists no longer consider Aborigines to be part of a separate racial group.* -Ronald M. Berndt, "Australian Aborigines," *The Academic American Encyclopedia* (Electronic Version, 1993); b) *Because Bourdelle believed in sculpture as the realization of an object, many critics consider him the predecessor of the cubist sculptors.* -Albert Boime, "Emile Antoine Bourdelle," *Ibid.* b) 文も、「…である」の意を強調して *many critics consider him to be the predecessor...* のように書換えることが可能となろう。また、動詞 *appear* や *seem* の後に 'to be' が入る場合も、「...である」の意が強調されていると考えられよう。cf. *The house appeared (to be) deserted. The book seems (to be) quite interesting.* -A S Hornby, *OXFORD ADVANCED LEARNER'S DICTIONARY OF CURRENT ENGLISH*, 3rd Edition.

## 4. PA としての形容詞 (文尾の場合)

c-1 If *you* come out of that place *alive*, you can consider yourself lucky.

- Jeffrey Archer, *Kane and Abel*, p. 92

本用例の形容詞 *alive* は、同文の主語 *you* がその場所から出てくる (come out of that place) 際の *you* の様態を補足的に述べている語で、PA である。従って、同文を If you are alive when you come out of that place に書換えた文とは本質的に異なると言えよう。

c-2 IT WAS EARLY JULY 1989, and *I* had returned to China after an absence of eight years, deeply *curious* about what had happened to my old Chinese friends.

- *Reader's Digest*, June 1992, p. 23

形容詞 *curious* は、主語 *I* が戻って来た (had returned) 際の *I* がどのような様態であったかを補足的に述べている語で PA である。ただし、同文は、用例 c-1 の *alive* の場合とは異なり、時を表す副詞句 after an absence of eight years がおかれているので、deeply *curious* の前はコンマで区切られ、同語が主語 *I* にかかることを示している。

c-3 *The young hunter* handed over the little boy to his mother, *happy* enough not to have dropped the slippery creature.

- Jeffrey Archer, *Kane and Abel*, p. 15

本用例の形容詞 *happy* も、用例 c-1, c-2 の場合と同じく、*The young hunter* handed over the little boy to his mother という完全文〈すなわち、*happy* 以下がなくても文は成立する〉の主語である *The young hunter* にかかりその様態を補足的に言い表している。従って、同文を *The young hunter* was happy when he handed over the little boy to his mother に書換えると視点の異なる文になろう。

c-4 *Sutter* died in Washington, D.C., on June 18, 1880, *heartbroken* at the failure of Congress to act for his relief.

- *Encyclopaedia Britannica*, Volume 21, p. 467

c-5 After making a bicycle tour of England, *he* arrived in Paris, *hungry and broke*.

- Dale Carnegie, *How to Stop Worrying and Start Living*, p. 228

用例 c-4, c-5における形容詞 *heartbroken*, *hungry and broke* もそれぞれ主文の *Sutter* died...や *he* arrived...という完全文の主語 *Sutter*, *he* を補足的に修飾する語で PA である。

c-6 When the man heard this, gloom spread over his face, and *he* went away *sad*, because he was very rich.

- *GOOD NEWS BIBLE*, Mark 10 : 22, p. 63

本用例の形容詞 *sad* は、意味の上から完全な文である *he* went away の主語 *he* にかかり、*he* が立ち去った (went away) 際の *he* の様態を補足的に示している。従って、*he* was sad when he went away に書換えた文とは本質的に異なるということになろう。同文の主たる要素は *he* went away であり、*sad* は *he* を補足的に叙述する語、すなわち、補足語ともいべき語で PA であるということになろう。

c-7 As with others who have said good things about children, Forbes was a bachelor. *He* died *young*.

- G. B. Harrison, *Profession of English*, p. 120

## 5. PA としての形容詞 (文頭の場合)

d-1 *Anxious* to get evidence against Shotgun, *Skinner* agreed.

- *Reader's Digest*, September 1993, p. 116

本用例の文頭におかれた形容詞 *Anxious* は、主語の *Skinner* が同意した



(agreed) 際の *Skinner* の様態を補足的に示しており、PA である。形容詞は、c-1~c-7 の用例に見られる文尾だけではなく、文頭、あるいは、文中におかれることもある。本用例の文頭の形容詞 *anxious* も、注 5)、6) に挙げた用例が示す通り、次のように文尾や文中におかれた文に書換えることが可能である。

d-1-a *Skinner* agreed, *anxious* to get evidence against Shotgun. (文尾)<sup>5)</sup>

d-1-b *Skinner, anxious* to get evidence against Shotgun, agreed. (文中)<sup>6)</sup>

d-1-c *Skinner anxious* to get evidence against Shotgun agreed.

用例 d-1-b においては、文中の *anxious* の部分は、コンマで区切られてはいるが、名詞 *Skinner* の直後におかれ、同語を密接に修飾している。すなわち、d-1-b、d-1-a、d-1-c の 3 文の中、*Skinner* にかかる同語の形容詞としての密着度は最も強い。しかし、コンマで区切られていない d-1-c 文の場合よりも、その密着度は薄い。同文の *anxious to...Shotgun* の部分は、主語を最も密接に修飾する形容詞で、コンマがないので切り離すことはできないと考えられよう。それが、d-1-a においては、主語 *Skinner* とその述語動詞 *agreed* の後におかれているので、主語からは離れ、遊離感が生じる。さらに、d-1-c においては、形容詞 *anxious* は主語の前、すなわち、文頭におかれ、d-1-a の文尾におかれている *anxious* の場合よりも、主語から離

5) cf. The ARVN retreat from the Highlands turned into a rout that became a disaster: troops fled south toward Saigon, *anxious* to protect their families. Sandra C. Taylor, "Vietnam War," *The Academic American Encyclopedia* (Electronic Version, 1993).

6) cf. The pharaohs of the 12th dynasty, *anxious* to be identified with the autocratic Old Kingdom, revised the classic complex pyramid but included unusual subterranean elements evoking the mythical tomb of Osiris. - David O' Connor, "Ancient Egypt," *The Academic American Encyclopedia* (Electronic Version, 1993).

れるので、なお一層の遊離感と距離感を生ぜしめる。さらに、注4)でも述べたように、同文に、「…である」の意を強調すべく being を付け加えて下の d-1-d のように、Being *anxious* to... Shotgun, *Skinner* agreed. といわゆる分詞構文にする場合もありうる。このように文頭にあると、主語に対する修飾語としての密着感が薄くなるので、副詞的に感じるに至り、意味の上から d-1-e のように、As あるいは Because のような理由を表す接続詞を用いて副詞節に書換えることが可能になると考えられよう。

d-1-d Being *anxious* to get evidence against Shotgun, *Skinner* agreed.

d-1-e As *Skinner* was *anxious* to get evidence against Shotgun, he agreed.

d-2 *Bankrupt*, he moved to Pennsylvania in 1873.

- *The Concise Columbia Encyclopedia*, p. 821

d-3 *Cautious* by nature, *Japanese firms* were especially circumspect before moving into China, especially after a disastrous false start in the late 1970s, when Beijing backed out of the first round of major Japanese industrial projects.

- *Time*, May 10, 1993, p. 31

d-4 *Numb*, they sat in silence for a while.

- *Reader's Digest*, January 1996, p. 120

d-5 Almost *speechless*, I tried to convey my wishes for his recovery.

- J. B. West, *Upstairs at the White House*, p. 167

d-6 Desperately *thirsty*, I sucked water from snow.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 140

## 6. PA としての現在分詞 (文尾の場合)

e-1 To ensure the goods reached you on time we sent them by rail to Liverpool 3 days ahead of schedule, but now learn that *they* are

still at the station *awaiting* transport to the docks.

- L. Gartside, *Model Business Letters*, Fourth Edition,  
Revised by S Taylor, p. 60

e-2 Soon more *helicopters* arrived, *driving* the reindeer before them  
a thousand frantic silhouettes fleeing the machines overhead.

- *National Geographic*, August 1993, p. 17

用例 e-1, e-2の *they* are still at the station, *helicopters* arrived は, それぞれの後に続く現在分詞の *awaiting*..., *driving*...がなくても, 意味の上から成立する完全文である。従って, 文尾の *awaiting*, *driving* は, 完全文の主語 *they*, *helicopters* を補足的に修飾する形容詞で, PA である。すなわち, *they* (=the goods) が駅におかれている (are at the station) 際の, あるいは, *helicopters* が着いた (arrived) 際の主語の相並行する様態がそれぞれ *awaiting* transport または, *driving* the reindeer である。

これらはいわゆる分詞構文<sup>7)</sup>であり, その部分はそれぞれ *they* are still at the station *and* *awaited* transport と more *helicopters* arrived and *drove* the reindeer に書換えることが可能であると説明される。しかし, 分詞構文を含む原文 *they* are at the station *awaiting* transport と, 分詞構文の部分を接続詞 *and* で結んで書換えた文 *they* are at the station and *awaited* transport とは決してイコールであるとは言えない<sup>8)</sup>。なぜならば, 原文の *awaiting* transport は, あくまでも主語に補足的にかかり, 主語の相並行する様態を表しているが, 書換え文においては...and(they)awaited transport となり, 原文の主要素の *they* are at the station と同じ力点を有する部分になり, 本来の補足的な要素ではなくなるからである。

7) 分詞構文について詳しくは, 拙稿「商業英語における分詞構文の一考察」『関西外国語大学研究論集』第21号 (1974年2月) pp. 115-130参照。

8) 分詞構文の書換え練習は, 文の構造をよりよく理解するために行われると考えられるが, このような文における現在分詞の補足的な本質を理解しないで機械的に書換える練習をすることは, 分詞構文を含む原文と...and...の書換え文がイコールであるかのような印象を学習者に与えることになるのでよくない, と言えよう。

e-3 Again and again, *I* set my sights on the most distant visible tree and trudged to it, *hoping* to find a trail.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 125

e-4 *Staten* headed for the creek, *knowing* it would lead out of the canyon.

- *Reader's Digest*, July 1997, p. 106

e-5 *We* were seated around the lunch table, *making* light conversation, when Dad proposed a toast, "Let's drink to James and his safe return." We raised our glasses.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 130

e-6 *I* WAS IN MY CHART ROOM *reading* about the *Whydah* when the phone rang. I picked it up.

- *Reader's Digest*, June 1993, p. 128

e-7 *I* shattered the ice off the clothes with my fists, *venting* some anger with each blow, and put them on, *shivering* with cold.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 127

用例 e-3~e-7における現在分詞 *hoping...*, *knowing...*, *making...*, *reading...*, *venting...*, *shivering...*は、それぞれ主語の *I*, *Staten*, *We*, *I*, *I* に補足的にかかる PA である。

## 7. PA としての現在分詞 (文頭の場合)

f-1 However, *bearing* in mind the special character of your trade, *we* are prepared to offer you a special discount of 4% on a first order for £400.

- L. Gartside, *Model Business Letters*, Fourth Edition, Revised by S Taylor, p. 50

f-2 *Having* carefully considered your letter of 8 August, *we* have

decided to allow you to defer payment of your account to the end of August.

- *Ibid.*, p. 79

用例 f-1の文頭の現在分詞 *bearing*, f-2の現在分詞の完了形 *Having considered* は、既に考察した文尾の現在分詞と同じく、それぞれの主語 *we* を補足的に修飾する形容詞で PA である。すなわち、それぞれの主たる要素である *we are prepared to offer...* や *we have decided to allow...* は、これらの分詞構文の部分がなくとも文として意味上成立する、ということになる。

f-3 *Looking up, she gasped in horror to see Maese fall like a stone, bouncing off the rock wall and landing with a sickening thud three feet away.*

- *Reader's Digest*, July 1997, p. 106

f-4 *Shining his flashlight into the air for a position fix, he radioed the pilot, Steve de Jesus. "How am I doing?"*

- *Ibid.*, p. 109

f-5 *Shivering, she used her bra as a tourniquet and wrapped it tightly above the wound.*

- *Ibid.*, p. 106

用例 f-1～f-5における現在分詞は文頭におかれているが、下記の用例における現在分詞は、文脈(context)から当然、文尾におかれるのが正しい、ということになろう。

*A freight train carrying hazardous chemicals derailed and caught fire early Thursday, killing at least one crew member, injuring at least 20 other people and closing a major highway.*

- *The Daily Yomiuri*, February 3, 1996, p. 5

すなわち、主語 *A freight train* が脱線して (derailed) 燃え上がった (caught fire) 際の主語の相並行、あるいは、相前後する動作、この場合

は、後であると考えられるが、が *killing...*, *injuring...*, *closing...* の順に PA で言い表されている、ということになろう。

## 8. PA としての過去分詞 (文尾の場合)

g-1 But for Theodore Kaczynski, *the man* who now spends his days *confined* to this cubicle, its sparse amenities could be considered an improvement over the 3-by-3.7-meter wooden cabin on a solitary hillside in western Montana where he lived for almost a quarter-century with no toilet, no plumbing, no water well, no sewage treatment, no telephone, no electricity and no clock.

- *The Daily Yomiuri*, April 20, 1996, p. 6

g-2 And *mothers* went out to work *convinced* they could juggle everything. Now women are more likely to be kinder to themselves. They ask: Do *I* feel satisfied *running* from one appointment to the next, *trying* to be a superwoman? Do I like the idea of allowing another person to bring up my child?

- *The Daily Yomiuri*, December 18, 1994, p. 14 (from THE INDEPENDENT)

用例 g-1, g-2における文尾の過去分詞 *confined*, *convinced* は、それぞれ、主語の *the man* が日々を過ごす (spends his days) 際の主語の相並行する様態が *confined* to this cubicle であり、また、主語の *mothers* が仕事に出かけた (went out to work) 際の主語の相並行する様態が *convinced (that)...* であり、それぞれ補足的な語の PA であるということになろう。

g-3 Later *I* went to the immigration and trekking office, *determined* to trace the German hiker through his trekking permit, which would have a photo of him.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 133

g-4 When *Mrs. Kennedy* returned, *exhausted*, from the Inaugural Parade, I accompanied her up the stairs.

- J. B. West, *Upstairs at the White House*, p. 228

g-5 I arrived home from work every night *worried* and *exhausted* from nervous fatigue.

- Dale Carnegie, *How to Stop Worrying and Start Living*, p. 328

## 9. PA としての過去分詞 (文頭の場合)

h-1 *Devastated*, I stood quite still.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 137

h-2 *Exhausted*<sup>9)</sup>, *Maxwell* watched the chopper head for Desert Hospital in Palm Springs.

- *Reader's Digest*, July 1997, p. 110

用例 h-1, h-2 の文頭の過去分詞 *Devastated*, *Exhausted* は、それぞれ、主語の *I*, *Maxwell* を説明している補足語で PA である。そして、*I*, *devastated*, *stood*..., *Maxwell*, *exhausted*, *watched*... と解することができよう。また、文頭に *being* を付けて *Being devastated*, *Being exhausted* といわゆる分詞構文にする場合もある。

h-3 Too *frightened* to cry, *she* lay on the smooth rock and began to

---

9) 過去分詞 *exhausted* が文頭におかれた場合、*Exhausted*, John left his office. という過去時制の文は正文であるが、それ以外の *Exhausted*, John \*leaves (\*will leave, \*may leave) his office は非文である。しかし、同語が文尾におかれた場合は、John left (leaves, will leave, may leave) his office *exhausted*. のように全て正文になる、との興味ある指摘がある。-David Dowty, "Temporally Restrictive Adjectives," John P. Kimball (ed.), *Syntax and Semantics*, Volume 1, p. 61; 文尾の *exhausted* については、用例 g-4 参照。

pray.

- *Ibid.*, p. 108

h-4 *Horrified, the hiker* watched as her friend plummeted to the rocks below

- *Ibid.*, p. 105

h-5 *Nauseated and tired, I* climbed into my sleeping bag.

- *Reader's Digest*, July 1996, p. 128

## 10. おわりに — PA の取り違えを中心に —

以上、現代英文の用例を通して、Predicate Appositive (叙述同格語)として用いられている名詞 (文尾, 文頭), 形容詞 (文尾, 文頭), 現在分詞 (文尾, 文頭), 過去分詞 (文尾, 文頭) について考察した。

叙述同格語 (Predicate Appositive) とは、文の主語, 目的語, あるいは、文全体に関連してそれらの相並行, もしくは、相前後しておこなわれる動作・様態を補足的に説明する語, すなわち、補足語ともいべきもので、形容詞の他に、名詞, 分詞 (現在分詞, 過去分詞) が Predicate Appositive (叙述同格語) として働くが、本稿では主語にかかる PA に関して考察をおこなった。

Predicate Appositive は、数多くの用例が示すように、英語に広く用いられ、英語になじんだ簡にして要を得た表現形式になっている<sup>10)</sup> と言えようが、Predicate Appositive の理解が不十分のためか、意味を取り違えている例も見られる。PA の取り違えの例として、次の 2 例を挙げ考察を続けよう。

---

10) Cf. We regret to inform you that one of the cases of your consignment arrived *in a badly damaged condition*. - C. E. Eckersley and W. Kaufmann, *English and American Business Letters*, p. 120 ; 例えば、同用例の *in a badly damaged condition* は、*badly damaged* と PA の表現に書き換えることが可能である。



(a) *I beat him jumping.*<sup>11)</sup> (飛びついて彼をなぐった)

旧版の『新英文法辞典』の Predicate appositive (叙述同格語) の項に、George O. Curme の *Principles and Practice of ENGLISH GRAMMAR* からの上記の用例が引用され、かっこの中に挙げた訳文が与えられている。同訳文は、「彼に飛びついた」と「彼をなぐった」の2文から成るので、それに相当する英文は、*I jumped at him and beat (hit, struck) him (on the head).* ということになろう。同文の現在分詞 *jumping* は、Curme が PA として挙げている用例であり、主語の I にかかり、I が目的語の *him* を打ち負かした (*beat*) 際の I の相並行する動作を説明している補足的な語である。分かり易く言い換えると *I jumped farther (higher) than he did.* ということであり、上記の訳文は「私は跳躍であの人に勝った(あの人を負かした)」ということになろう。

(b) *Heavy and warm, she spent hours sitting out back on their "patio"—a nine-foot square slab of concrete, unshaded—watching Rachel play with her little friends, sipping coffee with Louise and the other girl.* (注: *Heavy and warm* = *on heavy and warm day. heavy* 「うっとうしい、むしあつい」の意)

上記の用例は、大学教科書用に編集された Joyce Carol Oates の短編 “The Children” からのもので、*Heavy and warm* について、かっこの中に挙げた注が付けられている。既に、「5. PA としての形容詞(文頭の場合)」で考察した文頭の形容詞 *Anxious, Bankrupt, Cautious, Numb, speechless, thirsty* の場合と同じように、本文の文頭の形容詞 *Heavy and warm* も主語にかかって、主語の相並行する様態を補足的に叙述している。従って、

---

11) Cf. *I could always beat my brother at chess.* -LONGMAN DICTIONARY OF CONTEMPORARY ENGLISH, 3rd Edition; *You can't beat me playing dominoes.* - OED<sup>2</sup>, *nigger* の項)

形容詞 *Heavy and warm* は、主語の *she* にかかり、*she* が何時間も過ごした (spent hours) 際の *she* の様態が *heavy* で *warm* である、ということになろう。すなわち、*She, heavy and warm, spent hours...* ということである。なぜ、*heavy* なのか、それは、本文の数パラグラフ前に述べられている *she was pregnant again* や *She was proud of..., and of her new pregnancy* から、そして *warm* については、前のパラグラフで、暖かい日差しの下での服装を暗示する *in a green sunsuit* とか、座って何時間も過ごしている *patio* が *unshaded* であるとか、また、パラグラフの最後に述べられている *her dark-rimmed glasses sliding slowly down her perspiring nose* の *perspiring* から *Feeling heavy and warm, she spent hours...* であることが理解できよう。なお、*spent hours* に続く *sitting...*, *watching...*, *sipping...* のような現在分詞〈本来は、*spent hours in sitting...* のように動名詞として用いられる〉に関しては稿を新たにして考察することにした。

#### 参考文献

##### 一般辞書

*COLLINS COBUILD ENGLISH DICTIONARY*. London: HarperCollins. 1995.

*COLLINS COBUILD ENGLISH LANGUAGE DICTIONARY*. London: Collins. 1987.

*COLLINS ENGLISH DICTIONARY*, Third Edition. Glasgow, U. K. : HarperCollins. 1991.

*KENKYUSHA'S NEW DICTIONARY OF ENGLISH COLLOCATIONS*. (Edited by Senkichiro Katsumata) 『新英和活用大辞典』東京：研究社. 1958.

*Longman Dictionary of Contemporary English*, 2nd Edition. Harlow, England: Longman. 1987.

*Longman Dictionary of Contemporary English*, 3rd Edition. Harlow, England: Longman. 1995.

*Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, Tenth Edition. Springfield, Mass.: Merriam-Webster. 1993.

*New Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary*. 『ランダムハウス英和大辞典 (第2版)』東京：小学館. 1994.

- Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*, 3rd edition, edited by A S Hornby. 東京：開拓社. 1974.
- RANDOM HOUSE UNABRIDGED DICTIONARY*, Second Edition. New York : Random House. 1993.
- The Kenkyusha Dictionary of English Collocations*. 『新編英和活用大辞典』東京：研究社. 1995.
- The Oxford English Dictionary*, Second Edition. 20 vols. Oxford, U. K. : Oxford University Press. 1989. [OED<sup>2</sup>]
- Webster's Third New International Dictionary OF THE ENGLISH LANGUAGE*, UNABRIDGED. Springfield, Mass. : G. & C. Merriam. 1961, 1966.

### 参考書

- Araki, K. (ed.) (荒木一雄) 1986. 『英語正誤辞典』東京：研究社出版。
- \_\_\_\_\_. (ed.) 1996. 『現代英語正誤辞典』東京：研究社出版。
- Araki, K. and Yasui, M. (eds.) (荒木一雄・安井稔) 1992. 『現代英文法辞典』東京：三省堂。
- Curme, George O. 1947. *Principles and Practice of ENGLISH GRAMMAR*. New York : Barnes & Noble.
- \_\_\_\_\_. 1931. *Syntax*. Boston : D. C. Heath.
- Dowty, David. 1972. "Temporally Restrictive Adjectives," John P. Kimball (ed.), *Syntax and Semantics*, Volume 1. New York : Seminar Press.
- Evans, Bergen and Cornelia Evans. 1957. *A Dictionary of Contemporary American Usage*. New York : Random House.
- Ishibashi, K. et al.(eds.) (石橋幸太郎他) 1966. 『英語語法大事典』東京：大修館書店。
- \_\_\_\_\_.(eds.) 1973. 『現代英語学辞典』東京：成美堂。
- Konishi, T. (小西友七) 1964. 『現代英語の文法と背景』東京：研究社出版。
- \_\_\_\_\_. (ed.) 1980. 『英語基本動詞辞典』東京：研究社出版。
- \_\_\_\_\_. (ed.) 1989. 『英語基本形容詞・副詞辞典』東京：研究社出版。
- Nakama, K. (中間敬之) 1970. 「Predicate Appositive に関する一考察」『関西外国語大学研究論集』第15号 (昭和45年4月)。
- \_\_\_\_\_. 1974. 「商業英語における分詞構文の一考察」『関西外国語大学研究論集』第21号 (昭和49年2月)。
- \_\_\_\_\_. 1983. 『商業英語の語法』東京：大修館書店。
- Otsuka, T. (ed.) (大塚高信) 1959. 『新英文法辞典』東京：三省堂。
- \_\_\_\_\_. (ed.) 1970. 『新英文法辞典 <改訂増補版>』東京：三省堂。
- Otsuka, T. and Nakajima (eds.) (大塚高信, 中島文雄) 1982. 『新英語学辞典』東京：研究社。
- Otuka, T. and T. Konishi.(eds.) (大塚高信, 小西友七) 1973. 『英語慣用法辞典 <改

- 訂版』東京：三省堂。
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. New York : Longman.
- Shostak, Jerome. 1968. *Concise Dictionary of Current American Usage*. New York : Washington Square Press.
- Strunk, William, Jr. 1979. *The Elements of Style*. Third Edition, Revised by E. B. White. New York : MacMillan.
- Watanabe, T. et al.(eds.) (渡辺登士他) 1976. 『続・英語語法大事典』東京：大修館書店。
- \_\_\_\_\_. (eds.) 1981. 『英語語法大事典・第3集』東京：大修館書店。
- \_\_\_\_\_. (eds.) 1987. 『例解 現代英文法事典』東京：大修館書店。
- Webster's Dictionary of English Usage. 1989. Springfield, Mass. : Merriam-Webster.
- Yasui, M. (安井稔) (ed.) 1996. 『コンサイス英文法辞典』東京：三省堂。
- \_\_\_\_\_. (ed.) 1987. 『例解 現代英文法事典』東京：大修館書店。
- Yasui, M. et al. (eds.) (安井稔他) 1976. 『形容詞』(現代の英文法 第7巻) 東京：研究社出版。
- Yoshikawa, Y. (吉川美夫) 1955. 『文(下)』(英文法シリーズ21) 東京：研究社出版。
- \_\_\_\_\_. 1955. 『英文法詳説』東京：文建書房。
- Zandvoort, R. W. and J. A. Van Ek. 1975. *A Handbook of English Grammar*, Seventh Edition. London: Longmans, Green.